



第309号
編集責任 筑波大学新聞
編集代表 福原直樹
TEL: 029(853)2040・6699
E-mail: un.tsukuba.ac.jp
shinbun@
月刊
発行所 筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

紙面から

水泳	ロボットで平泳ぎの仕組み解明2
三重県開校100周年	開学40周年記念開催3
アテメットトモキタ	世界選手権総合優勝8
つばき陸上マラソン	国産鋼メダルに貢献9
つばき陸上マラソン	つくば駅でプレゼン
災害時の資料搬入	

11 10 9

特集 4.5
相次ぐ不正 大学研究の信頼回復へ
ミニ特集 6.7
40・50周年記念
学長・市長紙上対談

40・50周年記念

市原「教育日本一を目指す」 永田「世界都市つくばへ」

10月に開学40周年を迎える筑波大学の永田崇博学長と筑波研究学園都市市長の来場や、それぞれ迎える市の市長と市の協力をのり方などについて話した。市原市長は「教育日本一を目指す」という目標を掲げ、これに対し永田学長は「科学を軸に人種や言語性を超え、誰が快適に過ごせるポータル化した町である。グローバルシティとしての建設を掲げ、(○)7面に関連(ニ)特集

学長×市長紙上対談

今後の町づくりに、重要性を指摘。外国人研 究者からの一番多い要望だ。大学と連携シタール

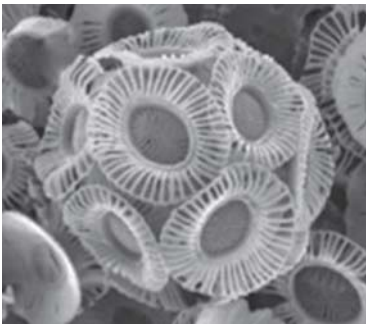
この他市原市長は、「外国人日本人だけでなく、

低温でも増殖可能 寒冷地での油の生産も

全世界の海に大量に生息する藻類の一種、**円石藻**を用いた燃料用の油生産を本学が白岩善博教授(生命科学)の研究で進めている。同教授は世界で初めて、北極海から採取した円石藻の増殖に成功し、その特性を解析。低温でも増殖することが分かり、将来的には寒冷地での油生産にもつながると期待されている。藻は海の食物連鎖の「出発点」をなす生物であるため、温暖化の影響で極端な水温が低下したときの増殖を研究することで、海洋生態系の変化やそれに伴う漁業資源の変化を予測することも可能だ。**中島佳奈**(生命科学専攻)の指導。



白岩善博 教授
同教授によると、円石藻は生育不可欠だが、同教授は生息地(北極)の適応性は化学物質であるセレンを餌とする。その海産適応性を加えることで、北極円石藻の増殖を促進している。研究のためには、藻の完全な工場での培養



油を生む藻類、円石藻

に成功した。更に分析の結果、世界中の円石藻のうち北極産のみ4倍という低温でも増殖可能であることを発見した。また、増殖データの解析から、塩濃度が海水より2.8%低いことが分かった。

付与が増殖が最も容易な塩濃度であることを発見した。また、増殖データの解析から、塩濃度が海水より2.8%低いことが分かった。円石藻は光合成の過程で油を生み出すことが知られている。現在、我が国の藻類の研究の中で最も本学が先進国では、油を生む藻類の研究が盛んに行われているが、大抵の場合、暖かい場所でよく増殖する藻類を利用して、温暖地での油生産を計画している。北極産円石藻を使うことで、燃料の大量消費による寒冷地での油生産を促進する可能性がある。将来的には、円石藻の正確な性質を明らかにする方針だ。

学長・市長の発言要旨

	市原市長	永田学長
教育	国際・国際的な人材の育成、支援	国際的な大学受験資格)の整備
町づくり	古い地域と新しい地域を一体化する	言語や人種・性の差がない誰も快適に過ごせるまちづくり
防災意識	大学の施設・学生に力を貸して欲しい	市と連携し、防災環境を整備する

れる環境を作る責任がある」とも語った。この上で永田学長は「国際・国際的な人材の育成、支援」について、言語や人種・性の差がない誰も快適に過ごせるまちづくりを目指す。市と連携し、防災環境を整備する。

開学40周年記念式典

40年の歩み振り返る 江崎元学長ら対談

「建学の精神は、教育と研究の発展にあり、これは40年経っても変わっていない」と語り、つばき市北条地区を拠点として設立された筑波大学が、10月10日、開学40周年を記念して、14時から、式典を執り行った。式典には、筑波大学の歴史上、最も重要な人物として、元学長らを迎え、式典が行われた。

式典は、筑波大学の歴史を振り返る対談が行われ、江崎元学長らと対談した。式典は、筑波大学の歴史を振り返る対談が行われ、江崎元学長らと対談した。



式典での下村文部科学大臣の祝辞代読

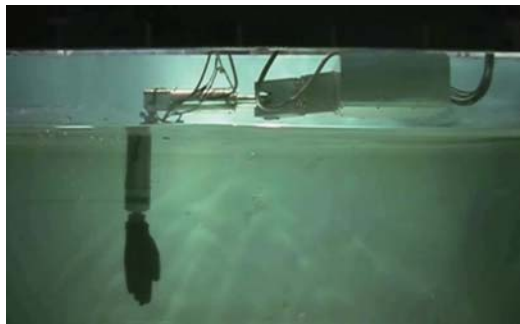
環境を整えたい。防犯環境を整えていけなければならない。町全体の環境を整備を行うことで、災害への対応力を高めることが期待されている。

筑波大学
草土山が世界遺産に登録されたのは、2011年。その影響を受けて、今年7月の登山者数は過去最高を記録したという。筑波大学の登山部が、草土山にちなんで、草土山登山部と改名した。

「防犯環境を整えていけなければならない。町全体の環境を整備を行うことで、災害への対応力を高めることが期待されている。」と語った。永田学長は「防犯環境を整えていけなければならない。町全体の環境を整備を行うことで、災害への対応力を高めることが期待されている。」と語った。

「防犯環境を整えていけなければならない。町全体の環境を整備を行うことで、災害への対応力を高めることが期待されている。」と語った。永田学長は「防犯環境を整えていけなければならない。町全体の環境を整備を行うことで、災害への対応力を高めることが期待されている。」と語った。

ロボットで平泳ぎの仕組み解明



実験で使われた腕型のロボット

成果を指導に生かす

高木英樹教授(体育学)は、これまでの理論上、手を使った平泳ぎ、平泳ぎの泳ぎで前に進むメカニズムを世界で初めて解明し、指導に生かす。

これまでは理論上、手を使った平泳ぎ、平泳ぎの泳ぎで前に進むメカニズムを世界で初めて解明し、指導に生かす。高木英樹教授(体育学)は、これまでの理論上、手を使った平泳ぎ、平泳ぎの泳ぎで前に進むメカニズムを世界で初めて解明し、指導に生かす。

3割の人が糖尿病の疑い 薬局での検査可能に

矢作直也准教授(医学)は、糖尿病の疑いがある人、あるいは糖尿病予備群の可能性がある地域、地域の可能性がどの程度かを調べる。薬局での検査可能に。

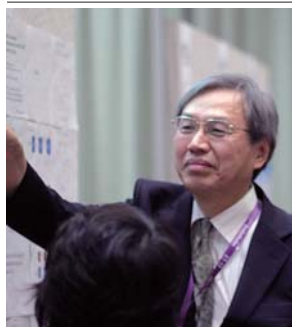
薬局での検査可能に。矢作直也准教授(医学)は、糖尿病の疑いがある人、あるいは糖尿病予備群の可能性がある地域、地域の可能性がどの程度かを調べる。

薬局での検査可能に。矢作直也准教授(医学)は、糖尿病の疑いがある人、あるいは糖尿病予備群の可能性がある地域、地域の可能性がどの程度かを調べる。

最新の研究成果を報告 がん治療の応用へ

国際エンドセリン学会

本学で25年前に発見された血管を収縮させる物質「エンドセリン」に関する最新の研究成果を報告する。



研究成果を説明する宮内教授

この研究成果は、がん治療への応用が期待されている。宮内教授は、最新の研究成果を報告する。

70人の高校生が参加 物理への関心高める

全国物理コンテスト開催



実験問題コンテストに挑む高校生

全国の高校生が物理の知識を競う「第9回全国物理コンテスト」が開催された。

70人の高校生が参加し、物理への関心を高める。実験問題コンテストに挑む高校生。

老化防止を検証 条件改め再治験へ

乳酸菌H61のヨーグルト

川口孝泰教授(医学)は、老化防止の効果を検証する。条件改め再治験へ。

老化防止を検証。条件改め再治験へ。川口孝泰教授(医学)は、老化防止の効果を検証する。

老化防止を検証。条件改め再治験へ。川口孝泰教授(医学)は、老化防止の効果を検証する。

編入試験で記述ミス 再発防止に努める

本学は7月16日、13日に実施した編入試験で、記述ミスを再発防止に努める。

編入試験で記述ミス。再発防止に努める。本学は7月16日、13日に実施した編入試験で、記述ミスを再発防止に努める。

編入試験で記述ミス。再発防止に努める。本学は7月16日、13日に実施した編入試験で、記述ミスを再発防止に努める。

編入試験で記述ミス。再発防止に努める。本学は7月16日、13日に実施した編入試験で、記述ミスを再発防止に努める。

編入試験で記述ミス。再発防止に努める。本学は7月16日、13日に実施した編入試験で、記述ミスを再発防止に努める。

編入試験で記述ミス。再発防止に努める。本学は7月16日、13日に実施した編入試験で、記述ミスを再発防止に努める。

編入試験で記述ミス。再発防止に努める。本学は7月16日、13日に実施した編入試験で、記述ミスを再発防止に努める。

編入試験で記述ミス。再発防止に努める。本学は7月16日、13日に実施した編入試験で、記述ミスを再発防止に努める。

編入試験で記述ミス。再発防止に努める。本学は7月16日、13日に実施した編入試験で、記述ミスを再発防止に努める。

編入試験で記述ミス。再発防止に努める。本学は7月16日、13日に実施した編入試験で、記述ミスを再発防止に努める。

編入試験で記述ミス。再発防止に努める。本学は7月16日、13日に実施した編入試験で、記述ミスを再発防止に努める。

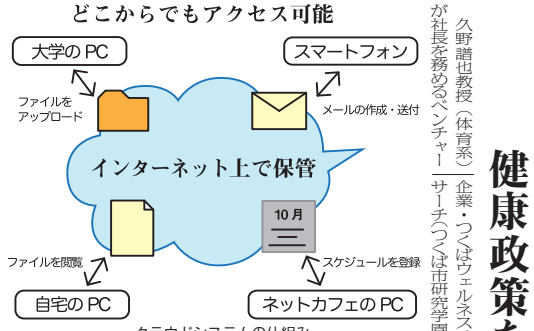
編入試験で記述ミス。再発防止に努める。本学は7月16日、13日に実施した編入試験で、記述ミスを再発防止に努める。

編入試験で記述ミス。再発防止に努める。本学は7月16日、13日に実施した編入試験で、記述ミスを再発防止に努める。

編入試験で記述ミス。再発防止に努める。本学は7月16日、13日に実施した編入試験で、記述ミスを再発防止に努める。

編入試験で記述ミス。再発防止に努める。本学は7月16日、13日に実施した編入試験で、記述ミスを再発防止に努める。

「健康クラウド」開発 健康政策を手助け



久野謙也教授(体育系)企業「つくばウェルネスリ」が社長を務める「チャイ」サナチ(つくば市研究学園)は、NTT東日本(つくば)との協力で、自治体の健康政策立案を手助けするクラウドシステム「健康クラウド」を開発した。

クラウドシステムはインターネット上でデータを保管する仕組みで、利用者は場所や端末の種類を問わずアクセスしデータの編集・保存などが可能。身近な例では、インターネット上のメールサービスなどにこのシステムが使われている。

参加自治体は、NTT東日本の変換技術によって保険の利用状況などのデータを一元化し「健康クラウド」

にアップロード。集められたデータの分析は本学「つくばウェルネスリ」が担当する。分析結果は自治体が住民の健康状態を把握したり、医療費の抑制政策立案する際に活用される。また分析結果を基にした評価指数「健康都市インデックス」も作成され、政策を単一として評価される。

同システムを利用することで、管理可能な情報量は住民の約3割から約7割分へと増加する。他の参加自治体のデータも利用できる。運用コストを抑えることも可能になるという。

今後は、同システムを活用した施策の検証を進めながら、データ分析の手法を改良し、5年以内の50自治体程度にまで普及させることを目指す。

鹿島と連携締結 地域の活性化へ

本校と株式会社鹿島アントラーズFCは8月3日、地域連携・活性化に向けた連携に関する協定を締結した。本学では、09年度以降、社会貢献活動の総務項目として同社の経営者や職員による講義実施しており、今回の協定締結で相互の協力体制がより強化される見込みだ。

連携の内容は、同社側が持つサポーター数などのデータを本学が統計分析に利用し、結果を鹿島アントラーズにフィードバックすることで双方がメリットを得るといわれる。まずは鹿島アントラーズの地域別のサポーター分布の検証と、14年の圏外延伸による集客効果分析の予定と話し合った。

協定締結の際には、鹿島アントラーズのホームゲームに本学の看板が掲げられることも発表された。大澤清教授(シス)は「本学は国際連携を進めるイメージが強いが、今回の協定を通じて地域と密接に連携する姿勢もアピールできる」と話した。



筑波大学管弦楽団定期演奏会 開学40周年記念開催



全3曲を披露

公演は山田耕筰作曲の「序曲、二長調」で晴やかに開幕した。2曲目のドヴォルザーク作曲「デコロ」は、客席から「ブラボー」の音が響いた。オーケストラがアンコールに応えた後も、会場では数分間拍手が鳴り止まなかった。千葉県流山市から来場した女性は「素晴らしい演奏会だった。3曲目で見た、弦楽器の弦を指はし、奏法(ピッチカント)が珍しかった印象に残っている。また機会があればぜひ来てみたい」と感想を語った。

京芸大学、フェリス学院、首陽会等の羽生さん、がテロの独奏披露。羽川さんの素晴らしい演奏テクニックと、それを支える男声の響きに感動した。3曲目は、4楽章から成るチャイコフスキー作曲「交響曲第4番」へ短調。日心9月29日まで開かれた。これは筑波大学開学40周年記念事業の一環、制作年別学内の4会場で開催された。

このうち、大ホール「トスペース」では大ホールで演奏された。千葉県流山市から来場した女性は「素晴らしい演奏会だった。3曲目で見た、弦楽器の弦を指はし、奏法(ピッチカント)が珍しかった印象に残っている。また機会があればぜひ来てみたい」と感想を語った。

過去の作品展示 幻想的な絵画を楽しむ

藤田志朗教授(芸術系)が1988年から今までに制作した作品を展示する。藤田志朗教授は「25年間の作品を、堂に展示できたのは、今後に制作の励みになると感じています(12面に関連写真)」。独特の画面が面白いと感じた。何かを伝えたいという画家の気持ちを感じたと感想を語った。

藤田教授は「25年間の作品を、堂に展示できたのは、今後に制作の励みになると感じています(12面に関連写真)」。



東大とスパコン共同管理へ 国内初の試み

本学の計算科学研究センターと東京大学情報基盤センターは7月22日、次期スパコン「ハイパースタス」を設計し、共同管理するなどの施設として、最先端共同HPC基盤施設を

設置すると発表した。スパコンを共同管理する組織の試みは国内で初めて。この施設は国内で初めてスパコン「ハイパースタス」を設計し、共同管理するなどの施設として、最先端共同HPC基盤施設を

2015年4月以降の稼働で、自動車の安全性評価やグリッド電網、気象観測などの予測に役立てられると見られている。完成すれば国内最高性能のスパコンに劣らないと見込まれた。

佐藤教授は「将来、より高性能のスパコンを開発し、諸分野の研究に役立てたい」と話した。

ドーパミンが記憶に関与 難病原因の解明へ

松本教授らの実験

類研究の高田昌教授はサルを使った実験で、意欲を高める物質ドーパミンは、物事の記憶にも関わっている可能性があることを明らかにした。研究成果は9月4日、アメリカの科学雑誌「Neuron」で発表された。今回の結果は、意欲の低下や認知障害などの症状が見られるパーキンソン病の原因解明につながるものとして期待されている。

実験はモーターに表示されたさまざまな角度の研究グループは、遺伝子ある変異を駆使したアメーバの体内で、多くの細胞が集まって波打く動きに「リントン波」と呼ばれる現象を観察した。その結果、リントン波は「波高」が一定であることを確認した。リントン波は「波高」が一定であることを確認した。リントン波は「波高」が一定であることを確認した。

不思議な現象を観察 生物の形成に関わる

桑山秀一准教授(生物系)の研究グループは、遺伝子ある変異を駆使したアメーバの体内で、多くの細胞が集まって波打く動きに「リントン波」と呼ばれる現象を観察した。その結果、リントン波は「波高」が一定であることを確認した。リントン波は「波高」が一定であることを確認した。

生物の形成に関わる。リントン波は「波高」が一定であることを確認した。リントン波は「波高」が一定であることを確認した。

UR 研究者を支援 企画・予算の確保を行う

UR 研究者を支援

研究の動向調査や資金調達の経験があり、それを生かしてUR 研究者を支援する「UR 研究者支援」が、今年10月に設置された。今年8月には文科省が推進する「研究強化促進事業」の支援対象機関に本学が選出され、年間3億円の予算が確保された。UR 研究者支援は「研究者が一人ひとりの研究に集中できるように、事務的な負担を軽減する」という目的で設置された。

加藤さんによれば、同室では、教員や学生の両方から要望を受け、共同で予算の計画を作成し、文科省などの資金を請求する。同室の多くは、研究者を支援する業務を担っている。

永田恭介学長

「若者は武者修行を」

「筑波大の学風は、表現に拘泥しない。永田恭介学長。10月に開学40周年を迎える筑波大学の永田学長と、研究学園都市50周年を迎えるつくば市の市原市長の「紙面対談」では、研究学園都市の推進役としての筑波大の立場が大きくクローズアップされた。個別のインタビューを対談形式でもめました。井口彰、原啓、平嶋健人、社会学類、姉崎信二、心理学類、市原ひかり(社会学工芸類)

「これまでの両者の協力関係は？」

永田 開学初の20年間は、筑波大は、大学としての構想を整えるのに精一杯だった。「開かれた大学」という建学の理念は素晴らしいが、その実現に何も無い所から切り開く必要があった。つくば市も、研究学園都市を作る」という目的はあったが、何も無い所から切り開く必要があったと思う。

市原 「つくば市」は、10年間は「まちづくり」は、北東地区の国際戦略総合特区の指定化なども、筑波大の学生や先生に協力してもらっている。筑波大の人材を、特に基礎研究のメッカであるため、それを利用して社会のために貢献できるかが課題となっている。今回の特区構想は、基礎研究の特区指定は、基礎研究が主眼となる。筑波大の国際化については、国際化に力を入れる。筑波大の国際化については、国際化に力を入れる。筑波大の国際化については、国際化に力を入れる。

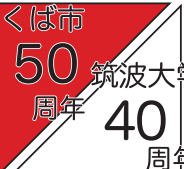
「これまで、両者の協力関係は？」

永田 開学初の20年間は、筑波大は、大学としての構想を整えるのに精一杯だった。「開かれた大学」という建学の理念は素晴らしいが、その実現に何も無い所から切り開く必要があった。つくば市も、研究学園都市を作る」という目的はあったが、何も無い所から切り開く必要があったと思う。



1953年生まれ。東京大学薬学研究所博士課程修了。専門分野は分子生物学。国立遺伝学研究所助手、東京工業大学助教授を経て、2001年本学教授に。昨年から学長特別補佐を務め、今年学長に就任。

「筑波大の学風は、表現に拘泥しない。永田恭介学長。10月に開学40周年を迎える筑波大学の永田学長と、研究学園都市50周年を迎えるつくば市の市原市長の「紙面対談」では、研究学園都市の推進役としての筑波大の立場が大きくクローズアップされた。個別のインタビューを対談形式でもめました。井口彰、原啓、平嶋健人、社会学類、姉崎信二、心理学類、市原ひかり(社会学工芸類)



つくば市50年の歩み

- 1963 筑波大学開学
- 1973 筑波大学開学
- 1985 つくば万博開催
- 1987 筑波鉄道廃止
- 1988 つくばー東京間の高速バス運行開始
- 1990 筑波大学開学
- 1992 筑波大学開学

反射鏡

前田仁(知識2年)

「楽しいながら作るおいしさを」

「料理以外の何かをやって何かを作る行程が楽しい。料理も同じなんだ。」

ゼミでの学びを指導に活かす

生稀史彦

「自ら取り組むことの大切さ」

「ゼミでの学びを指導に活かす」

原点 GEN-TEN

「原点」

「原点」

市原健一市長



「オールつくばで協力を」

法政のと思う。そういう「心」を町全体で育てるために市を協力的にした。「サインシステム」は、つくば市が環境エネルギー都市や特高教育の充実を掲げ、筑波大学研究学園都市ができたグローバルシティとして進めているのは、「環境」が多くの人の関心事だから。環境への取り組みに無関心人はいない。同じ課題に向かって連携し、協力をすることで、結果的に示すことができると思う。

魅力を高める
方策は？

50年後のつくば市は？

永田 今後50年間は、グローバルシティに育つための科学技術をつの柱とするべきだが、そこでも忘れてはならない。技術だけを前面に押し出す人が感じられない町にならなければならない。

50年後には、グローバルシティとして次の問題に向き合っているだろう。いかに地球の幸せを実現していくか。そういう世界の二大テーマを先導して対応できる

つくば市は「住みやすい町」を目指していますか？

市原 快適な生活のためのインフラや商業施設の整備はもう完了だが、一番大切なのは教育。市小・中・高教育制は、文部科学省をそれぞれに認め、市独自のカリキュラムもある。環境、道徳、国際理解など、市が持つさまざまな特徴を盛り込んだ、他には無いものだ。

永田 「グローバル化」と言っても英語が話せなければならぬ。英語が話せなくても、日本人にしかできない国際社会への対応方

つくば市は、これまで「住みやすい町」を目指して、魅力を高めてきた。50年後のつくば市は、グローバルシティに育つための科学技術をつの柱とするべきだが、そこでも忘れてはならない。技術だけを前面に押し出す人が感じられない町にならなければならない。

50年後には、グローバルシティとして次の問題に向き合っているだろう。いかに地球の幸せを実現していくか。そういう世界の二大テーマを先導して対応できる



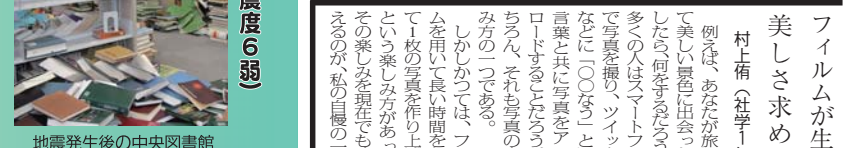
つくば市長 市原健一さん

1951年生まれ。北里大学医学部卒業。勤務医を経て、93年茨城県議員に当選(初当選以降4期連続当選)。茨城県監査委員などを務めたのち、2004年つくば市長に当選、現在3期目。

- 1994 つくばー成田空港 直通バス運行開始
- 常磐新線(つくばエクスプレス) 起工式
- 2003 市と本学が 連携協定を締結
- 2005 つくばエクスプレス 開業
- 2007 自動車に「つくば」ナンバーできる
- 2010 搭乗型移動ロボットの公道走行実験が認可
- 2011 東日本大震災発生(つくば市震度6弱)
- 2012 竜巻発生



竜巻の被害を受けた北条地区



地震発生後の中央図書館

フィルムが生む美しさ求めて
村上侑(社会学一年)

例は、あなたが旅に出て美しい景色に出たら、どんな何者だろうか。多くの人はスマートフォンで写真を撮り、ツイッターなどに「〇〇な」という言葉と共に写真をアップする。私もその一人。でも、私が高校で写真部に入ったとき、それは、フィルムを使って長い時間をかけて一枚の写真を取り上げる。その楽しさを現生も味わうのが私の自慢の一品。

自慢の一品

約35年前のフィルムカメラ。私がこのカメラを使い始めたのは高校1年のころ。以前は父親が使用していたが、私が高校で写真部に入ったとき、それを譲ってもらった。古いカメラであるため、現在のデジタルカメラのような便利な機能はなく、露光時間の設定は全自動で切り替えが必要。一度フィルムが生む美しさ求めて

今月のテーマ
最高の料理を
齋藤龍平(生物一年)

結論から言うと、料理と「心」が伴って初めて完成する。料理にはあまのシチュエーションがあるが、必ずと言っていいくらいに「心を込める」ことが、その料理の味を決定づける。私が高校で写真部に入ったとき、それを譲ってもらった。古いカメラであるため、現在のデジタルカメラのような便利な機能はなく、露光時間の設定は全自動で切り替えが必要。一度フィルムが生む美しさ求めて

会へ出展したこともあった。現在では本学の写真部に所属しており、今後も学園祭などの機会を通じて積極的に作品を披露していきたい。

フィルムカメラを取り巻く環境は厳しく、関連商品の製造中止が相次いで発表され、フィルムの現像を行う写真屋も、その数を大きく減らしている。それでも、フィルムカメラが完全に廃れないのは、フィルムでしか表現することができない美しさが存在するからである。その美しさを追い求めて、このカメラを使い続ける。写真家人生は、まだまだ続いた。

次号のテーマは
秋

TEL 029-853-0000
e-mail shinoun@un.tsukuba.ac.jp

世界ラート競技選手権大会 高橋が日本人初の総合優勝

世界ラート競技選手権大会が7月9日に行われた。男子総合では高橋靖彦(平成24年度体育修)が優勝、田村元延(17年)が2位に入賞した。女子では堀口文体育(17年)が直転で3位、跳躍で5位に入賞するなど、本学の活躍が目立った。

男子の部では高橋が跳躍で優勝、斜転で3位、直転で5位と、3部門で1位を



華麗な技を決める高橋

高橋は「演技中は自分の世界に入り込んでいるので、良い結果が出た。他の国の人にも優勝を祝福されて、優勝したという実感が湧いた」と語った。

女子の部では堀口が直転で5位に、跳躍で2位に入賞した。

また、高橋、田村、堀口の3人は団体戦にも出場して26・45点を獲得し、合計で0・2点差まで詰め寄る結果となった。高橋はチームメンバーだけでなく、日本代表の全員で勝ち取った銀メダルに振返った。

女子の部では松浦が跳躍で優勝、斜転で2位、直転で3位に入賞した。また、高橋、田村、堀口の3人は団体戦にも出場して26・45点を獲得し、合計で0・2点差まで詰め寄る結果となった。高橋はチームメンバーだけでなく、日本代表の全員で勝ち取った銀メダルに振返った。

女子の部では松浦が跳躍で優勝、斜転で2位、直転で3位に入賞した。また、高橋、田村、堀口の3人は団体戦にも出場して26・45点を獲得し、合計で0・2点差まで詰め寄る結果となった。高橋はチームメンバーだけでなく、日本代表の全員で勝ち取った銀メダルに振返った。



好投する山田

好投を見せた山田は、自分の投球は調子が良かったが、エラーからの失点は(チームとして)痛かった。今後は守備の課題を克服し、リーグ戦を勝ち抜きたい」と語った。

前年の王者から2ゴール チームの進化 証明



強烈なシュートを放つ赤崎(中央)

「やっぱりプロですね。強かった。この日だけが欠陥した上村伸博(4年)は、ピッチにいる時間を侮らなに見つめた。

その後キャプテンの谷口彰悟(同4年)やけがから復帰した守備の要・車屋静太郎(同3年)を中心に守り、パスからボールをつなぎゴールに迫る。ところが39分、高橋がゴールを叩き、チームは確実に進化した。このゴールがその証。抑えてははいけなかったと振り返る。

後半はチャンスが徐々に増え、だが左サイドから(12面に関連)

第93回天皇杯全日本サッカー選手権大会の2回戦

各地で行われ、筑波大学は9月4日、日立柏サッカー場で千葉薬科と対戦し、1-0で勝利した。2回戦は9月11日、神奈川県の横浜国立大学と対戦し、0-1で敗れた。同大会は筑波大学は過去に2回優勝しているが、プロチームの壁に阻まれた。(油布知雄) 人文学類1年、森脇慎二(社会学類1年)

筑波大学は、前年同様、2回戦で対戦した。柏は前大会の王者、柏レイソルだ。攻撃的なチームで、試合は攻め合った。前半は柏が攻め、後半は筑波が攻めた。柏は前半にゴールを叩き、筑波は後半にゴールを叩いた。試合は、筑波が後半にゴールを叩いた。試合は、筑波が後半にゴールを叩いた。

筑波らしいパス磨き

筑波らしいパス磨き。試合は、筑波が後半にゴールを叩いた。試合は、筑波が後半にゴールを叩いた。

記者の目

記者の目。筑波大学は、前年同様、2回戦で対戦した。柏は前大会の王者、柏レイソルだ。

安高が2連覇、松浦も優勝 団体でも差をつける

第9回全日本ラート競技選手権大会が、松本大学で開催された。筑波大学は、男子総合で高橋靖彦が優勝し、女子総合で堀口文体育が優勝した。

男女共に苦戦 残りの試合で挽回へ

秋季関東大学バレーボールリーグ戦。筑波大学は、男子バレーで苦戦を喫っている。女子バレーでも苦戦を喫っている。

守備乱れ低迷

首都大学野球秋季リーグ。筑波大学は、守備の乱れで低迷している。投手陣は好投を見せたが、守備のミスが目立つ。

団体戦で準優勝

関東甲信越体育大会。筑波大学は、団体戦で準優勝を挙げた。男子バレーで優勝し、女子バレーで準優勝した。

野球

野球。首都大学野球秋季リーグ。筑波大学は、投手陣の好投が目立つ。守備の乱れも目立つ。

テニス

テニス。関東甲信越体育大会。筑波大学は、男子シングルスで優勝し、女子シングルスで準優勝した。

WFDF2013世界U-23アルティメット選手権大会 國廣 銅メダルに貢献



円盤をダイビングキャッチする國廣

チームの後方支える

アルティメットの世界大銅メダルを獲得した。WFDF2013世界アルティメット選手権大会が7月22〜28日にカナダのヨーク大学で開催され、本学から日本代表メンバーとして國廣亮(数)が活躍し、銅メダルに貢献した。國廣は攻撃時にチームの後方を支える重要なポジションを務め、勝利に貢献した。

國廣は8月27日、永田恭介学長表敬訪問。永田学長は「勉強ももちろんだが、若い今の中にアルティメットを頑張っているのが、若いうちから長からの励みを受けているのが良かった」と話した。

ラグビー

関東大学対抗戦 早稲田・慶應に連敗 日本一へのトライを

引き続き松上七郎(同)3年生のキックも、その後のトライを許して13で前半終了した。遊撃を狙うも後半14分、トライを奪われ更に追いつかれる。35分には早稲田から素晴らしいパスを取り戻す。試合終了。重要な局面でのミスが、課題が浮かぶ開幕となった。



相手を振り切りトライを狙う村川

決める、10〜10で同点に持ち込んだ。しかし直後の12分にまたもトライを許し、その後は相手の堅い守備に苦しむ状況が続いた。37分は10分間にも及ぶ猛攻の末、内田が執念のトライ。再び17で追いついた。そのままだけで終わると思われた42分、本学のミズベナリキックのチャンスを捉え、内田がトライを決め、本学はサテライを負った。

永田学長ら「五輪開催を祝う」 「五輪成功に尽力したい」

2020年オリンピックは、スポーツの分野で歴史的な成功を収めた。永田学長は「五輪開催を祝う」と話した。永田学長は「五輪開催を祝う」と話した。永田学長は「五輪開催を祝う」と話した。

小林 一本勝ちで優勝 昨年のリベンジ果たす



全日本ジュニア体連別選選手権大会。小林は決勝で昨年敗れた相手と対戦し、一本勝ちで優勝した。小林は「昨年、敗れた相手と対戦し、リベンジを果たすことができてうれしい」と話した。

安・遠藤共に優勝 講道館杯へ勢いづく

全日本学生柔道体連別選選手権大会。安藤と遠藤が共に優勝し、講道館杯への勢いづくことが期待されている。



顔

9月7日に開幕した首都圏野球。部活動やサークル、堅実な守備、巧みなバットコントロールでチームを支えているのが板崎直人(体専2年)だ。1年生の春リーグからスタメン出場を果たし、本を期待の選手として注目を浴びている。



入学直後からスタメン出場

板崎直人(体専2年)は、入学直後からスタメン出場を果たした。板崎は「練習で頑張りたい」と話した。

負けず嫌いを努力に変えて

負けず嫌いを努力に変えて。板崎直人は、練習で努力を怠らぬことを目指している。

つくば院生ネットワーク つくば駅でプレゼン



質問が飛び交う駅前

つくば院生ネットワーク(TGN)主催の駅前キャンパスが8月3日、つくば駅で開催された。このイベントでは、本誌記者を含む本学の若手研究者が観光客や市民を対象に自分の研究分野を紹介した。

今回のイベントは、つくばの魅力を一般の人に伝えるというテーマで、プレゼンテーション形式で行った。プレゼンでは、スポーツやトレーニングの紹介に始まり、最新の科学的知見、改札前に集まった人々は研究者の話に熱心な様子で、質問が飛び交った。また、会場には、最新の研究成果をまとめたパンフレットも配布された。

サマー・オープン・フェスティバル 大学・企業の研究者が講演 多くの参加者訪れる

「T-Oオープンフェスティバル」が、7月中旬から9月初旬にかけて開催された。本学や産業界の研究者が講演する「サマー・オープン・フェスティバル」は、市内の各会場で行われ、全国各地の大学や工場の関係者が訪れた。講演内容は、最新の研究成果や、企業での実践的な事例などが多く、参加者は非常に多かった。

最先端技術を体験 外科手術の実習も

高橋里奈さん(筑波大学)が、最先端技術を体験する実習に参加した。実習内容は、最新の医療機器を使った手術の実演や、最新の研究成果の発表などが行われ、参加者は非常に興味を持って参加した。高橋さんは、「最新の医療技術に触れることができて、とても勉強になった」と話した。

留学生の目 山本亜聖

「一人暮らし」という経験をした。最初は両親からの指示がなく、自由であったことがとてもうれしかった。しかし、時間がたつにつれ、病気になるなり、お金が足りなくなったり、一人暮らしの難しさやストレスを思い知った。いつも両親が心配してくれていた経済面や健康面を、私は忘れずに考えている。



家族と友達の大切さに気づく

「家族と友達の大切さに気づく」と題して、留学生の体験談が紹介された。留学生は、海外で生活する中で、家族や友達との絆の大切さを改めて実感した。また、新しい友達やコミュニティを見つける喜びについても話された。

理系女子育成へ 座談会や実験行おう

女子中高生を対象とした座談会や実験が行われ、理系女子の育成が促された。座談会では、理系女子の活躍の場や、理系分野での学びの楽しさなどが話し合われた。実験では、最新の科学技術を使った実験が行われ、参加者は非常に興味を持って参加した。

筑波大学ピアノ愛好会デビューコンサートが10月11日(金)にアルス・ホル(つくば市音楽会)で開催される。デビューコンサートは、ピアノを中心に演奏披露するコンサート。曲目は、ショパン作曲、リスト作曲の「賦子」、ラヴェル作曲の「舞の舞」、ドビュッシー作曲の「夜曲」など。入場料は無料。問い合わせ先は、ピアノ愛好会(TEL: 029-853-1376)。

Who's Who?

「こゝろ」をウズベク語に翻訳 アミノヴァ・ノデイラさん (平成24年度国際地域研究専攻・特別研究学生終了)



提供：湖山径子 / グラフィックデザイナー

作品が掲載された雑誌を手にするノデイラさん

日本の「こゝろ」が、遠く離れたウズベクスタンの地へ届いた。ウズベキスタン国籍のアミノヴァ・ノデイラさん(平成24年度国際地域研究専攻・特別研究学生終了)は、本学在学中に、夏目漱石の代表作「こゝろ」をウズベク語に翻訳し、発表した。日本の文学作品が、日本語からウズベク語に直接翻訳されるのは初めてだ。

父(第2次世界大戦後、建築業に携わる中、旧ソ連の捕虜となり強制労働をせられていた)の日本男性と交友を深めた。初めは互いの言葉が分からなかったが、二人は少しずつ「こゝろ」を通じた。祖父は捕虜の待遇改善を求めて政府に紙を送り、友人は祖父が大けがを負った時に見舞い、いつか二人は民衆立場の通いを通じた。祖父は友人に身を越えて親友となった。しかし友人は身を弱く帰国の願いを叶わす。祖父は幼いノデイラさんに親友の思い出を語り、友達になるのに大切なのは言葉ではなく「こゝろ」だと何度も繰り返す。お前が日本語勉強していつか彼がしてくれなことを、日本の彼の家族に伝えてほしい」と言い残した。

日本と母国をつなぐ「こゝろ」の架け橋

父(第2次世界大戦後、建築業に携わる中、旧ソ連の捕虜となり強制労働をせられていた)の日本男性と交友を深めた。初めは互いの言葉が分からなかったが、二人は少しずつ「こゝろ」を通じた。祖父は捕虜の待遇改善を求めて政府に紙を送り、友人は祖父が大けがを負った時に見舞い、いつか二人は民衆立場の通いを通じた。祖父は友人に身を越えて親友となった。しかし友人は身を弱く帰国の願いを叶わす。祖父は幼いノデイラさんに親友の思い出を語り、友達になるのに大切なのは言葉ではなく「こゝろ」だと何度も繰り返す。お前が日本語勉強していつか彼がしてくれなことを、日本の彼の家族に伝えてほしい」と言い残した。

会った。タイトルを見たとき、祖父の教えが頭をよぎり、手にとたと話す。初めて読んだ時は文書表現が難しかったが、何度も読むうちに「誰の『こゝろ』を表現した作品なのか」と考えた。文学を学ぶと、その国の文化や価値が理解できると気がついた。今は「こゝろ」が「日本人の『こゝろ』」を表現した作品だと思ふ。修了後、母国の大学院に進学し、文学課程を中心に本学留学。言語学や文学、翻訳を中心に勉強していたノデイラさんは、本学の大学院で言語学の観点から「こゝろ」を研究。同時にウズベク語への翻訳に挑戦した。漱石の独特な表現のウズベク語への置き換えや、母国ではあまり知られていない日本の生活様式の解説に苦労しつつも、翻訳は1年かき完成した。作品は今、5月から母国の著名な文芸誌「世界文学」に連載された。大統領毎月購入する雑誌にウズベクスタンを初めて直訳の日本文学が紹介されるとあって、雑誌は即日在庫切れになる程の人気が高い。

「こゝろ」が伝わり、互いの理解を助けるのなら、祖父とその友人の魂も蘇んでくれるはず」とノデイラさんは笑う。現在は日本の企業に就職しており、今後は日本文学を翻訳するだけでなく、優れたウズベクスタンの学を日本語に訳すなど、文学を通じた両国の文化交流に意欲をみせる。「両国の架け橋となるならば、橋は両端から渡らなければ意味がない。翻訳はその第一歩で、将来は両国の友好関係に立つ社会を設立したい」とノデイラさんは話す。

次号は
11月5日(火)
発行予定です

部員の秋学期は編集期間を暮らすが、私が部の伝統、フランス帰りのH、オーストラリア帰りのSをはじめ、夏休みの思い出と旅のおみやげを抱えて、部員が続々と帰ってきました。そんな私を待っていたのは、40周年記念号を作るという大きな使命。特に年表は、これだけは私が完成させる!と張り切った。年生1の逸品です。他にもAのイラストやMの観戦記など、今回採面の各所で、1年生が腕を振るいまし。連日の深夜作業にも関わらず、笑顔が耐えないうちに助けられたなど、いつも以上に思いました。部員の新聞を発行し、気づけば引き継いで2ヶ月。編集長である前に記者として、今一度初心を思い起こし、残る2号の新聞を作りたくと、(編集長・原啓一郎) 社会類(3年)

藤田志朗展



幻想的な世界を描いた絵画

3面へ

天皇杯 柏レイソル戦



華麗に相手をかわす本学選手

8面へ

ひらめき☆ときめきサイエンス



附属病院で体験実習を行う高校生

10面へ

僕らの夏休みプロジェクト



本学生と交流する被災地の子どもたち

11面へ

学芸

スポーツ

学生生活

学生生活

編集後記

部員の秋学期は編集期間を暮らすが、私が部の伝統、フランス帰りのH、オーストラリア帰りのSをはじめ、夏休みの思い出と旅のおみやげを抱えて、部員が続々と帰ってきました。そんな私を待っていたのは、40周年記念号を作るという大きな使命。特に年表は、これだけは私が完成させる!と張り切った。年生1の逸品です。他にもAのイラストやMの観戦記など、今回採面の各所で、1年生が腕を振るいまし。連日の深夜作業にも関わらず、笑顔が耐えないうちに助けられたなど、いつも以上に思いました。部員の新聞を発行し、気づけば引き継いで2ヶ月。編集長である前に記者として、今一度初心を思い起こし、残る2号の新聞を作りたくと、(編集長・原啓一郎) 社会類(3年)